政策コメンテーター報告（第3回、意見照会期間：2014年10月24日～11月5日） 渡辺　努：東京大学大学院経済学研究科教授

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	９月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ①　消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び（正規比率の上昇を含め）や消費マインド ②　企業収益の動向、民間設備投資の強さ（設備投資計画の動向も含む） ③　輸出入の動向、交易条件の動向 ④　物価動向（一時的要因を除いた実勢と期待物価） ⑤　マーケット（株価、為替、金利等）の動向	4月以降消費は落ち込んでいる。消費税引き上げの反動減の域を超えている。消費の低迷を反映して，東大日次物価指数は税抜で前年比▲0.5%程度の下落基調にあり，持ち直しの兆しは見えない。今後は日銀の追加緩和により状況が改善すると予想している。追加緩和による円安は輸出企業の収益を改善させ賃金上昇をもたらす可能性がある。また株高に伴う資産効果は消費停滞を解消させる効果がある。これらは物価を上昇させる方向に作用する。しかし物価目標の実現に向けて鍵を握るのは家計や企業のインフレ期待である。4月の直前には高かったインフレ期待が今は萎えてしまった。インフレ期待を再び高められるかどうかが最重要の注目点である。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身（自社）の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	研究者としての専門的な知見を持っておりません。回答を控えさせていただきます。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	日銀の追加緩和に伴い急速な円安が進んでいる。米国FRBによる量的緩和が終息に向かう中で日本のQQEは加速しているので，円安傾向は今後も続くと予想される。円安になっても輸出数量が増加していないため，円安のメリットは少ないという見方もあるが，円安が輸出企業の収益を改善させていることは間違いなく，それはいずれは賃金上昇というかたちで労働者に還元されるはずだ。賃金上昇は物価目標2％の達成に不可欠である。政府は輸出企業における賃金上昇が実現されるよう，企業に働きかけるなどの施策をとるべきである。